

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)TCK下鶴間計画	階数	地上4F
建設地	神奈川県大和市下鶴間2569番5、2570番2、2570番4	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	720人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年4月24日
敷地面積	7,051 m ²	作成者	合同会社建築計画研究所
建築面積	3,466 m ²	確認日	2020年4月24日
延床面積	10,611 m ²	確認者	合同会社建築計画研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>食品工場としての性能を確保するため衛生ゾーニングやメンテナンス、清掃性を配慮した計画としました。従業員の働きやすさを考慮して作業環境の改善や快適な休憩スペースを確保しました。また、地域社会への配慮として騒音、臭気の発生源となる機器や排気口の配置を工夫し、道路側に緑地を設けることで周辺環境へも配慮しました。</p>	
<p>Q1 室内環境 評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせ、対応性・更新性に配慮しました。</p>
<p>LR1 エネルギー 太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面に配慮しました。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 機械バルコニーにルーバーを設置し周囲からの見え方に配慮することで、まちなみへの調和を図りました。</p>
	<p>LR2 資源・マテリアル リサイクル資材を採用するなど非再生性資源の使用量削減に配慮しました。</p>
	<p>LR3 敷地外環境 運用時のLCCO₂排出量を低減し、地球温暖化へ配慮しました。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される